

## ドイツ・ハレ大学「環境講座」に参加して

国際交流協定校であるドイツのマルティンルター大学ハレ・ヴィッテンベルク校(以下ハレ大学)で行われた環境講座に参加した2学生から体験記が寄せられた。同大学から大林守国際交流センター長に招待があり、環境地理学専攻の青山高義教授から推薦された2人が参加したもの。講座はドイツ学術交流会(DAAD)からの後援を得て開催された。また、現地の新聞には阪口さんの活動の様子が掲載された。

「環境講座」に参加して

中山絵美子(文2)

阪口絵理奈(同)



▲ブランデンブルク門前で。ハレ大学の学生に案内してもらおう。(左から中山さん、阪口さん)

環境地理学を専攻している私たちは、青山教授の紹介で素晴らしい体験をすることができました。講座は地理学、社会学、経済学、法律学等を専攻している大学院生・学部生の日本人学生とハレ大学の学生、各10人を対象として、9月26日から10月8日の約2週間開講されました。ごみの埋立地やリサイクル工場、火力発電所、石炭の露天掘りの現場を見学し、授業ではドイツと日本の環境政策の比較、リサイクルシステムやエネルギー効率についてのディスカッションを行いました。

意識の高さに感心

(中山)

以前から、環境先進国と言われるドイツの環境政策に興味がありました。講義などは英語で行われたので、環境政策やリサイクルシステムを「英語で」学ぶことは難しかったのですが、日本の環境政策についての意見を聞いたり、ドイツの企業や市民の取り組みについて調べたり(環境問題に対する意識の高さに感心!)と、さまざまな視点から環境問題をとらえることが出来ました。また、ハレの学生は休日にベルリンを案内してくれたり、一緒に飲みに行ったりと、短いながらもドイツで有意義に過ごしてきました。

受講にあたっては多くの先生のお世話になりました。この経験をこれからの環境問題の学習に生かしていきたいです。

環境対策の差を考える

(阪口)

ドイツはとても素晴らしいところでした。町並みや景観は考えていたよりも伝統的な雰囲気が残され、人々も優しく、日本人のように控え目で、すぐに打ち解けることが出来ました。

今回、さまざまな体験を通して多くのことを得ることが出来ました。中でも一番印象を受けたことは人々の環境に対する意識の高さでした。国民がこのように考えているからこそ、ドイツは環境先進国と言われる進んだ環境政策を推し進めていけるんだということが分かりました。

日本とドイツの環境対策の差を、人々を通して考えることの出来た良い機会となりました。

---

## 留学生日本語スピーチコンテスト

チムールさん(キルギス)が1位

第5回専修大学留学生日本語スピーチコンテストが10月5日、生田キャンパスで開催され、「日本に来て気

づいたこと」をテーマに9人の留學生が熱弁をふるった。

参加留學生は日本という異文化の中で日ごろ感じていること、考えていることを日本語で発表。会場には審査の先生方をはじめとする教職員、學生に加え地域の人々もリスナーとして参加。それぞれのスピーチに盛んな拍手を送っていた。

審査の結果、1位はチョンムルノフ・チムールさん(キルギス、商学研究科修士課程1年)が獲得した。チムールさんは、お年寄りや体の不自由な人に席を譲ろうとしない電車内での若者の姿にショックを受けた経験を話し、「日本は『自由主義』の国だが、公共の場での若者のマナーの悪さを見ると、自分さえよければ、と考える『利己主義』の国と思われても仕方がないのではないか。一人ひとりが相手の立場に立って行動する、思いやりの心を持ってほしい」と訴えた。2位以下の受賞者は次の通り＝敬称略。

▽2位＝許成宇(韓国檀国大学・特別聴講生)▽3位＝趙徑眞(韓国・商1)▽入賞＝王威(中国・商1)▽同＝崔紅蘭(中国・商1)▽同＝宗承亮(中国・商1)▽同＝王佳瑩(中国・経営2)▽同＝項偉明(中国上海大学・特別聴講生)▽同＝姜南圭(韓国・経営1)

---

## TOEFL・ITP 500点以上獲得者

9月28日実施の第3回TOEFL-ITP試験で、500点以上の學生(18人)の氏名と点数は次の通り＝敬称略。

関口博人(文2)▽四條淳司(文3)＝以上560点▽城所正樹(文3)547点▽小川知恵(文3)543点▽中村綾(文2)533点▽岩谷純一(文3)▽尾島康仁(ネット情報2)＝以上527点▽栗原直人(文2)513点▽諸星源(経済2)▽曾部孝之(文2)▽吉田匠吾(文3)＝以上507点▽石黒豊(文3)▽松村瞳(文3)▽森隼人(経済1)▽長嶺つかさ(文2)▽野崎真紀子(文2)＝以上503点▽池田優子(文2)▽澤田ひろ子(商2)＝以上500点

今回の平均点は450・95点。1回目より5・72点高く、平均点は毎回上昇、昨年度の同じ時期に実施したITPと比較しても10・61点高くなった。

総受験者数は過去最多の166人。

---

## 日高学長、特別聴講生と懇談

国際交流協定校から来日し、研究に励む特別聴講生と日高義博学長との懇談会が10月5日、生田キャンパスの学長室で開かれた。参加者はマルティンルター大学ハレ・ヴィッテンベルク校(ドイツ)、檀国大学(韓国)など6大学からの留學生12人。日高学長は、自身の留学経験(ドイツのトリーア大学に80年から2年間)を披露しながら終始にこやかに応対、一人ひとりに直接激励の言葉をかけた。

ハレ大学から留学している法学研究科のズザンネ・ブルクシュさんは「私の研究分野にも直接触れ、話がはずみました。感激しました」と話していた。



---

## 日本の秋を楽しむ 研修中の短期留學生

2004年BCLプログラムおよび秋期日本語日本事情プログラムで研修中の短期留學生ら41人が、晴天の10月22、23の両日、箱根、河口湖を訪れ＝写真、深まりゆく日本の秋を楽しんだ。



---

## 第7回LL研究室ワークショップ

LL研究室(三浦弘室長)の第7回ワークショップが後記の通り開催される。

▽統一テーマ=専修大学における外国語教育の実践

▽日時=12月11日(土) 13時~17時30分

▽場所=生田キャンパス1号館LL教室ほか

▽内容=ワークショップ、授業実践報告(6発表)ほか。

---

## 英語力をつける読書ガイド 7

できるところから確実に

杉本孝子(経済学部兼任講師)



『TOEIC公式ガイド&問題集日本語版』(The Chauncey Group International著、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会刊、2800円+税)

『英会話・ぜったい・音読・挑戦編』(國弘正雄編 講談社インターナショナル刊、1200円+税)

英語学習の本を選ぶとしたら、英語のどのような力を伸ばしたいかをポイントに、あくまでも自分にできるものを選びましょう。背伸びして難しい本を買っても、途中で投げ出してしまいうようなものでは時間もお金ももったいないですからね。

そこで、今回は効率よく自分で続けられる本を紹介します。みなさんの中には就職を考慮してTOEICを受けてみたいと思っている人がいるかもしれませんが、その場合は『TOEIC公式ガイド&問題集 日本語版』を推薦します。この本はLLのライブラリーにもあるので、いつでも自習室でCDを聞きながら勉強できます(3冊ほどあるので友達と一緒にOK)。またLLではTOEIC対策の講座(無料)もあり、実際に講師の説明を聞いてみるとTOEICの出題内容や取り組み方などがわかります。TOEICは試験の要領がわかるまでは独学は大変ですが、学内のこうしたサービスを利用すると勉強の滑り出しが格段によくなります。この本はTOEICの本番に合わせてありますから、TOEICを仮体験できて便利です。

次は英語の発音の本として『英会話・ぜったい・音読・挑戦編』を紹介します。これは高校1年生用の教科書の英文を付録のCDをモデルに音読して「聞いたり、話したりする力」を養うものです。教科書は前に勉強して

内容がわかっているので聞き取りやすく、音読練習にも余裕がでできます。きっと手応えがあるはずです。

【ニュース専修2004年11月号4面】